

# フェンシングを知る

川 俣 町 自 慢 の ス ポ ー ツ



Go-Fencing.

## 川俣町のスポーツ 『フェンシング』

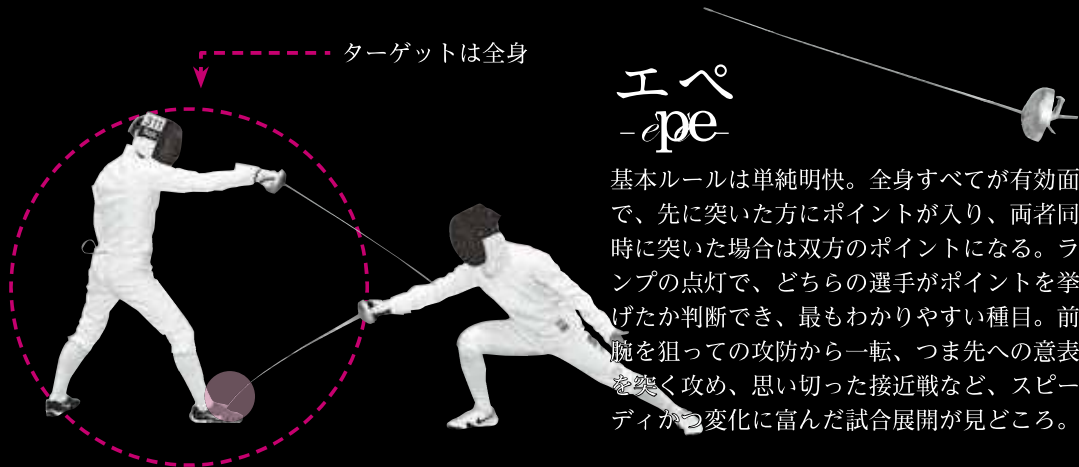
川俣町を代表するスポーツといえ、やはり「フェンシング」と答える方が多いのではないのでしょうか。町民のみならず、もちろん「フェンシング」という言葉は聞いたことがあると思いますが、実際に、フェンシングがどんなスポーツか知っていますか。また、なぜ、ここ川俣町に根付いているかをご存知でしょうか。

そもそも、フェンシングは、中世ヨーロッパの騎士たちの「名誉を守る」「身を守る」ことを目的にした剣技が起源とされています。武器の進化により剣の実用性は次第に衰退していきましたが、騎士を象徴する剣技はその後も、人々を魅了。次第に競技化への道を歩み、19世紀末にはヨーロッパ各地の上流階級を中心に競技として盛んに行われるようになりました。剣道の背景に武士道があるように、フェンシングには「騎士道」に裏打ちされた高い精神性が歴史的背景にあるのです。

そして、1896年の第1回アテネ・オリンピックでフルレールとサーブルの2種目が正式種目に採

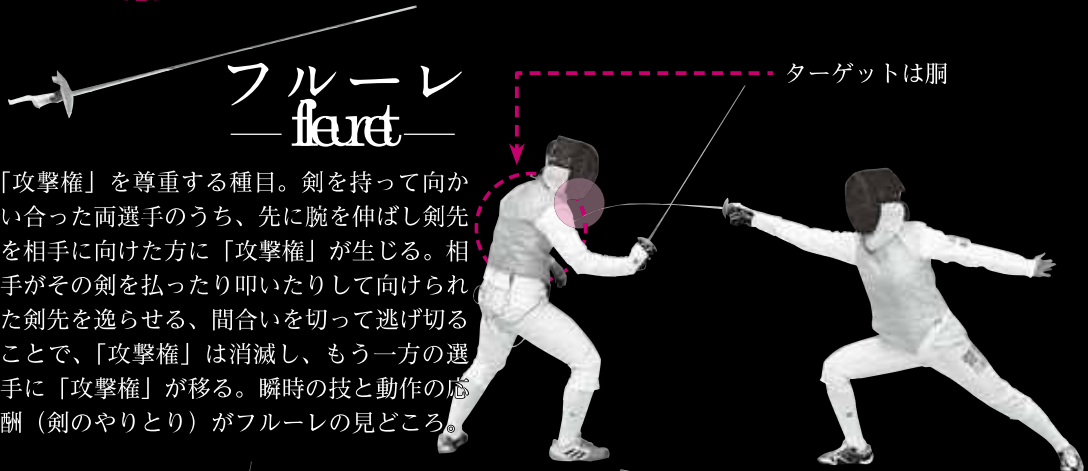
# 三種目の魅力。

フェンシングは三つの種目からなる



## エペ — epee —

基本ルールは単純明快。全身すべてが有効面で、先に突いた方にポイントが入り、両者同時に突いた場合は双方のポイントになる。ランプの点灯で、どちらの選手がポイントを挙げたか判断でき、最もわかりやすい種目。前腕を狙っての攻防から一転、つま先への意表を突く攻め、思い切った接近戦など、スピーディかつ変化に富んだ試合展開が見どころ。



## フルーレ — fleuret —

「攻撃権」を尊重する種目。剣を持って向かい合った両選手のうち、先に腕を伸ばし剣先を相手に向けた方に「攻撃権」が生じる。相手がその剣を払ったり叩いたりして向けられた剣先を逸らせる、間合いを切って逃げ切ることで、「攻撃権」は消滅し、もう一方の選手に「攻撃権」が移る。瞬時の技と動作の応酬（剣のやりとり）がフルーレの見どころ。



## サーブル — sabre —

ハンガリー騎兵隊の剣技から競技化した種目。有効面は上半身のみで、フルーレとエペが「突き」だけの競技であるのに対し、サーブルには「斬り（カット）」と呼ばれる攻撃と「突き」の二つの攻撃が存在する。ルールはフルーレと同様「攻撃権」に基づいているが、豪快な「斬り」の技が加わる分、よりダイナミックな攻防が見られるのが魅力。

用されて以来、フェンシングは、現在まで正式種目に採用されている、まさに世界に認められている歴史的スポーツなのです。

では、川俣町にフェンシングが根付いたきっかけは何なのでしょう。それは、平成7年に開催された「ふくしま国体」（第50回国民体育大会）です。

それまで、福島県内のフェンシングの中心は、福島商業高校を中心とした福島市でした。しかし、昭和63年に「ふくしま国体」フェンシング競技が、川俣町で開催されることと決定されたことをきっかけに、平成元年には川俣町フェンシングスポーツ少年団が結成され、平成2年には川俣高校にフェンシング部が誕生。平成5年にはフェンシング競技のできる国内有数の施設「川俣町体育館」が完成し、川俣町は次第に福島県を代表するフェンシング競技の拠点となっていくのです。

それ以来、川俣町の選手は、全国的に見ても、恵まれた環境で練習に打ち込み、国体での優勝など輝かしい成績を残してきました。近年も、町内出身の選手は伝統を受け継ぎ、全国大会入賞はもちろん、国際大会にも出場し、活躍する選手が現れてきています。